

---

# 羽虫の囁き

恒

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

羽虫の囁き

### 【Nコード】

N1451G

### 【作者名】

恒

### 【あらすじ】

戦後数年の日本。大日本帝国の植民地となつた祖国を捨て、両親とともに帝都東京に逃れ、なんとか裕福な生活と差別の中での幸せを手にした旧大韓帝国の捨てられし皇女、無為<sup>ムイ</sup>。彼女は何者かに邸宅を焼き討ちされ、両親を殺害されてしまう。燃ゆる寝室に現れたのは、背に蜉蝣<sup>カゲロウ</sup>の如し薄羽根を広げた黒き死神、サカキであった。

黒蜻蛉（クロトンボ）（前書き）

残酷表現に御注意ください。

## 黒蜻蛉（クロトンボ）

少女は酸素が薄まっていく部屋の中で目を覚ました。木造建築物の焼ける臭いが鼻を刺し、その次に来たのは………。血肉の焦げる異臭だった。生物本能的に、少女は手元の蠟燭ろうそくに火を灯した。そこには………。解体された父母の血肉が、新室の床に散乱していた。ベッドや壁、床に飛び散った人間の血液は火力によって急速に水気を失い、強力な引火性物質へと変わっていく。肉や臓器も同様に………。

「おかあ……さま？ ……御父様！！」

状況を理解した少女の目に、悲しみが浮かんだのは一瞬だけだった。

「誰だ？ まだいるんだろ、出て来い、私が御父様や御母様と同じ目に合わせてやるぞ……クフフ……フハハハハハハハ！！！！」

「おやおや、このような幼子が復讐を唱えるとは世も末ですね。よほど強い執着をお持ちのようだ。どうです？ 私を駒に使いませんか？」

「………」

何時しか、暗い寢室の闇に溶けるが如し燕尾服と肩まで掛かる黒髪をまとい、背に蜉蝣カゲロウの如く美しい薄羽根を持つ、蒼白なる顔面の男が、彼女の目の前にいた。

「貴方は私と似ている。僧でもない人間が頭を丸め、火を噴く筒の

ような道具を持って清国に戦を持ちかけ、あっけなく殺されてゆく様はとても醜く、汚らしい。そうは思いませんか？旧大韓帝国皇帝が第十三皇女、無為様<sup>ムイ</sup>。おっと、申し遅れました。私はサカキ、死神にございます」

「確かに、お前は私と似ている。命じよう、我が僕となり、私の定るままに破壊の限りを尽くせ。我が<sup>ワレ</sup>、汝<sup>ナンジ</sup>の命が尽きるまで」

「<sup>イエス</sup>御意、<sup>マイロード</sup>小皇帝」

黒蜻蛉（クロトンボ）（後書き）

知性、バトル、人情・・・全てにおいて完璧な小説を作りたいと思っていました。学生であるこの身でございますが、若者の成長を小説を通し傍観して頂きたい次第でございます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1451g/>

---

羽虫の囁き

2010年10月12日06時36分発行